

形成・美容外科 卒後臨床研修プログラム（選択）

I 研修プログラムの目的及び特徴

形成・美容外科学は、身体全域の形態の再建を扱うため、これに必要な基礎的知識、診断学及び治療技術を修得するとともに、医師としての社会的責任及び役割を認識し、日進月歩の医学に貢献できる医師を育成する。

この研修プログラムを実践することで、

1. 形成・美容外科の対象疾患を知ることができる。
2. 形成・美容外科で行う治療法を知ることができる。
3. 形成・美容外科で扱う患者・家族の痛みに触れる良い機会となる。
4. 皮膚及び創の取り扱い方に対する形成・美容外科的基本概念を知ることができる。

II 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者： 三 川 信 之（教授）

III 研 修 指 導 医

三 川 信 之（教授、頭蓋・顎顔面外科、小児先天異常、熱傷、褥瘡、顔面神経麻痺、美容外科）
窪 田 吉 孝（准教授、乳房再建などの乳房乳頭形成術、脂肪移植術、熱傷）
秋 田 新 介（診療准教授、リンパ浮腫、悪性腫瘍切除後の再建、難治性潰瘍）
山路 佳久（助教、顔面神経麻痺、頭蓋顎顔面領域、マイクロサージャリー）

IV 研修プログラムの管理・運営

形成・美容外科教授によって教育、評価が行われる。

V 募集定員 3名（1～6ヵ月毎）

VI 教育課程

1. 研修開始年度 令和7年4月1日
2. 期間割と研修医配置予定 全期間、千葉大学で研修する。
3. 研修内容と到達目標
 - 一般目標（GIO）
形成・美容外科の基本的知識を習得する。
 - 行動目標（SBOs）
 - A. 経験すべき診察法・検査・手技
 - （1）基本的な診察法
 - ① 基本的な皮膚良性腫瘍の診断
 - ② 顔面骨骨折のX-P、CT読影

- (2) 基本的な臨床検査
 - ① 顔面神経麻痺（外傷性）の診断
- (3) 基本的手技
 - ① 皮膚切開
 - ② 形成・美容外科的皮膚縫合法
- (4) 基本的治療法
 - ① 創傷処理
 - ② 術後創の処理
 - ③ 包帯法
 - ④ 皮膚縫合法
- (5) 医療記録

B. 経験すべき症状・病態・疾患

- (1) 症状
- (2) 疾患・病態
 - ① 皮膚損傷
 - ② 基本的な皮膚良性腫瘍

C. 特定の医療現場の経験

- (1) 小児・成育医療

D. 頭蓋顎顔面骨疾患の正しい診断と治療法の習得

VII 週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	病棟、外来、手術（中央手術室）	外来、手術（中央手術室）
火曜日	病棟、外来、外来手術	外来、外来手術
水曜日	病棟、外来、手術（中央手術室）	外来、手術（中央手術室）
木曜日	病棟、外来、手術（中央手術室）	外来、手術（中央手術室）
金曜日	病棟、外来、手術（中央手術室）	外来、手術（中央手術室）、抄読会、カンファレンス

VIII 評価方法

1. 形成・美容外科教授により総合評価が行われる。
2. 指導医により、各到達目標に対する評価が行われる。
3. 研修医は、各到達目標に対する自己評価表を提出する。